

小学校中学年の部

特選 自由図書部門

「かけがえのないたった一つの命」

揖斐川町立小島小学校 四年

藤内 結菜



五百九十ぴき。これは、令和四年度に岐阜県でさつしよ分されたねこの数です。私は、この夏休みに、岐阜県の動物あいごセンターの見学に行きました。きっかけは、一冊の本、「いのちの花」を読んだからです。

この本を読んで、私は、かわいい犬やねこがなぜこんなにもたくさんさつしよ分されなくてはいけないのだろう、と怒るような悲しいような気持ちになりました。また、引越しや、しつけの失敗など、自分勝手な理由でペットをかんたんに手放してしまう飼い主がいることにおどろきました。そして、さつしよ分された犬たちのほねは、おはかに入れられるのではなく、ゴミとしてすてられる、ということにショックを受けました。本を読んでいてつらくなってしまうけれど、本当のことが知りたいと思い、センターの見学会に参加してみることにしました。

見学に行く前までは、何だかこわそうなしせつだな、と思っていました。でも、実際に見学してみると、想像とちがって、さつしよ分を少しでもへらそうとしていること、犬やねこのために活動しているということが分かりました。また、犬やねこ以外に、野生の鳥など他の動物のほごもしていると聞き、命が大切にされている場所なんだなと思いました。犬やねこが赤ちゃんを産めないように手じゅつをすると聞いた時はびっくりしたけれど、これ以上、悲しい思いをする犬やねこをふやさないためにも、必要だ

ということを初めて知りました。

本の中で、青森の高校生たちは、さつしよ分された犬たちのほねをくだいて、花のひ料にするという活動を始めました。私だったら、ほねをくたくという作業がつかいし、できるかどうか自信がありません。でも、ゴミにしないため、そして一人でも多くの人に命の大切さを伝えるために、活動に取り組んだ高校生はすごいなと思いました。実際に、高校生たちは、つらくて、くやしくて、涙を流しながら作業を行なったそうです。そこから聞いた「いのちの花」が、さつしよ分について知らなかった人にも伝えるきっかけになってよかったなと思いました。

私は、ねこが大好きです。かわいいし見ていだけいやされます。ほごねこを飼いたい。でも、今すぐに飼うことはできません。それは、さいごまで大切に飼う責任があるからです。今の私にできることは何か。まずは動物についてもっと知ること、そして自分で考えることを大切にしていきたいです。

岐阜県でさつしよ分されるねこの数は、十年前と比べると、千六百ぴき以上少なくなっています。少なくなつてよかった。でも、五百九十という数は本当に少ないのでしょうか。人も動物も、命は一つしかありません。さつしよ分ゼロを目指し、一つ一つの命を大切に守っていききたいです。

(綾野 まさる) 作

『いのちの花 ペットの殺処分0を願う女子高生たち』

株式会社ハート 出版

【講評】

本を読んだうえで、実際の現場を自分の目で確かめ、感じたことを深めている点が優れています。また、自分自身が生き物を飼うことに対して、大きな責任があることを学び、今の自分にできることを考える姿勢が素晴らしいです。